



京都 YWCA

1 2019

YWCAは、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

YMCA/YWCA 合同祈禱週集会

ユースエンパワメントが世界を変える

—日野原重明さんからのファイナルギフト—

限りない可能性を信じて

世界の YMCA と YWCA は、毎年 11 月の第 2 週を「YMCA・YWCA 合同祈禱週」として社会や世界の抱えている様々な課題について共に祈りを捧げる週としてきました。今年の祈禱週のテーマは「ユースエンパワメント」です。11月16日、京都 YWCA において「日野原重明さんからのファイナルギフト～ユースエンパワメントに向けて～」と題して医療法人社団パリアン理事長の川越厚（かわごえこう）さんよりお話を聞きました。

川越さんはご自身のクリニックで診療を行いながら、がん患者さんの在宅ホスピスケアを中心に患者さんに寄りそう医療を実践されています。師と仰ぐ聖路加国際病院の院長であった亡き日野原重明先生から受けたギフトを今回、私たちにも分けてくださいました。

医学はサイエンスにしてアートである

お話は日野原先生がよく引用された「医学はサイエンス（科学）にしてアート（技）である」というウィリアム・オスラー博士の言葉に始まりました。古代はアート（占いや祈り）しかなく、近代になりサイエンスが発達し、最近では EBM^注 が重視されるようになってきました。癌を「診断すること」はサイエンスであっても、癌を「告知すること」はアートであるという言葉から、日野原先生が「病む人への癒し」に心を傾けて医療に取り組んでこられたことを強く感じました。

死を見つめながら生きるために

よど号ハイジャック事件に巻き込まれて死に直面した経験から、「人のために生きる」と誓われた 58 歳の日野原先生。「まだみなさん遅くないですよ」と川越さんから激励を受けました。命の主役は自分だと思いがちですが、自分ひとりの命でなく、「他者に支えられての命」であることを知り、そのことに対し奉仕する心を持つことは日野原先生のキリスト者としての生き方に通じていました。死を受容した生き方とは「目の前に迫った死を見つめながら、希望を持って、今を生きること」であると話されました。「手はもはや何もできなくとも、合唱はできる」という祈りの姿勢を日野原先生は臨終まで貫かれました。

お話の後、グループで感想を共有しあい、ユースから「死

んでも後悔しないという生き方がしたい」と強く生きる感想を聞くことができました。またユースからの質問に対しては、川越さんは飛行機を例えにして、「離陸してスピードが加速しているユースと着陸しようと減速している高齢者とはエネルギー、気持ちの持ちよう、見える景色が異なります。そのことを理解することが大切です。自分の価値判断だけで発する、がんばろうという言葉は時に相手にストレスを与えてしまうことがあり、あるがままを受け止めてあげてほしい。若い時から死について本などから学び、また、日常の暮らしの中で身近な人をしっかり見つめて、生まれ、病み、老いて死ぬことを、学んでほしい」と話されました。

ユースだけでなく、病み、老いることに実感が持てるようになってきた年代の人たちにもユーモアをもって生きる励ましのメッセージを頂きました。

（松田 千治）

注）EBM（Evidence-Based Medicine）：科学的根拠に基づく医療



川越厚さんのお話に関き入る参加者



ユースもシニアも一緒にグループディスカッション

多文化おでかけプログラム

10月27日、京都YWCAの多文化共生委員会の主催で外国籍の親子と一緒に遠足に行ってきました。行き先は滋賀県草津市の琵琶湖博物館。琵琶湖の成り立ちや歴史、水辺の人々の暮らし、そして生き物たちなどに関する展示が見応えがあるだけでなく、水族館も併設されたとても充実した施設です。

参加者の国籍はタイ、ロシア、フィリピン、パレスチナ、日本。また、年齢も乳幼児からおばあちゃん世代までとまさに多文化・多世代の人々が和やかに交流する機会となりました。移動には大型バスを利用したので、行き道中、自己紹介と誰もが大好きなビンゴゲームで打ち解けることができました。



みんなで「Y」！わいわい楽しい一日を過ごしました

博物館の中では、子どもの年齢などを考慮してグループに分かれて行動しました。みなさんとともに熱心に見学していましたが、子どもたちに人気なのはやはり水族館だったと思います。幼い子どもたちもじっとガラスの向こうの魚たちに魅せられている様子がしばしば見受けられました。

午後にはちょうどロビーコンサートが開催されていて、高学年の子どもたちはプラスバンドの演奏に聞き入り、ちょっとお姉ちゃんたちは小さい子たちを誘って、手を取り合って演奏に合わせて踊りだしました。そこにほんわりと暖かい空気が流れる場が生まれていました。

日頃私は、多文化共生委員会のもとでAPT (Asian People Together) という滞日外国人を支援するグループの多言語電話相談に関わっています。その中で出会った人々の中に、このような機会に日常を離れて普段とは違う空間や経験を味わってもらいたいなあと思っているあの人の顔がたくさん思い浮かんだのですが、そういった人々ほど仕事の都合をつけるのが難しかったようです。その点がとても残念でしたが、次の機会には、そういう人々も参加できるように考えて、より多くの人に今回のような楽しい一日を過ごして欲しいと思います。

(神門 佐千子)

シリーズ ▶ やっています！こんなこと⑥

「にほんご教室洛楽」の保育サポート

京都YWCAは様々な理由で日本に暮らす外国籍の方々の為に「にほんご教室洛楽」を開いています。洛楽では週1回木曜日の午前中に保育付きのクラスを設けて、入園前の乳幼児のいるお母さん、お父さんの日本語学習支援を行っています。

保育ではお母さん、お父さんと離れて不安になり泣いてしまう子どももいますが、次第にお気に入りのオモチャを見つけ楽しく遊べるようになり、覚えた日本語を口にする等、可愛らしい成長も見られます。私達保育サポーターは、子ども達がケガをしないよう、マンツーマンで十分に注意を払いながら子どもたちを温かく見守り、時には自分達も童心に戻り一緒に楽しむ雰囲気大切に活動しています。多様な文化背景を持つ子ども達と言葉ではなく表情やアイコンタクト、身振り等で意思疎通が出来た時の喜びは格別です。子ども達の笑顔に国境は無く、平和の種が

宿っていると感ずます。子ども達を守り、平和を築いていく小さな一歩ですが、このような活動、保育サポートに関心のある方は、いつでも京都YWCAまでお問い合わせください。

(寺田 有古)



保育付きクラスの交流会

今年も親子で楽しんだ恒例の「あきまつり」

11月11日、晴天の日の午後、リズム遊びから「あきまつり」のプログラムは始まりました。炭火で焼く竹パンのいいにおいが漂ってきます。輪投げをして「はいった！」と喜ぶ声が聞こえます。指圧で体を楽にしてもらって笑顔になった人がいました。人形劇や絵本の読み読みの部屋では、物語の世界に引き込まれている姿が印象的でした。工作コーナーで工夫して作った楽器は、その後の打楽器ワークショップで活躍しました。かふえでは軽食やお菓子、飲み物でゆったりした気持ちになりました。ロビーではバルーンアートや子ども服、おもちゃのリサイクル市も賑やかです。「京の音屋」さんによるライブでは、演奏する人と聴く人が同じ場所で一緒に楽しむことができました。

参加する人たちが楽しいひとときを過ごせるように、親子育ち支援活動委員会のメンバーは知恵を出し合い時間をかけて企画・準備をしてきました。そして迎えた当日、ボランティアの力も加わって、充実した「あきまつり」となりました。

(横川宏美)



楽しく工作

一人ひとりを大切に ～ 10/27 親子ワークショップ「子どもの育ちと発達障がい」～

このワークショップで私が最も感動したのは、講師の古田直樹さん（京都市児童福祉センター）が発達障がいと言われる一人ひとりの子ども達を、かけがえのない唯一無二の存在として理解しようと努めている姿勢だった。

ぼくが ここに いるとき
ほかの どんなものも
ぼくに かさなって
ここに いることは できない

という まど・みちおの詩の一節が浮かんできた程だ。子ども一人ひとりを見つめ、それぞれの育ちを大切にしなければ、子ども自身の生きる力を見出すことは不可能に近いのだと思う。

ワークショップでは、ペンギンを主人公にしたクレイアニメ『ピングー』の鑑賞と、「ブザーワーク^{注)}」を行った。

ピングー達は理解不能な「ピングー語(?)」で会話をしているにも関わらず、参加者達はそのストーリーをほぼ説明出来た。ピングーの身体や感情の表現を通してその内容を理解するのは容易なことだった。古田さんは、「言語という記号」がなくても、「意味世界」は成立するのだと説明された。

「ブザーワーク」を実際に体験した参加者は、「何をさせ

られるのか予測がつかないのでとても不安だった」と感想を述べられた。外界を意味を持って把握することが苦手な子ども達にとって、この「不安世界」はまさに「日常世界」そのものと言える。「意味世界」を共有するために、母親や療育者は、子どもの限られたサインを見逃さないように細心の注意をはらっているに違いない。

幼児期に、身体や情動に働きかけることは、「対話的な世界」を育む上で大切な課題となる。最後に古田さんは、「意味を共有する」関係性を築く上で、「困った時に助けてと言えるかどうかが一番大事」であると強調された。それは、人を信頼できるかどうかが鍵となる。人から助けられた経験がなければ、到底人を信頼することなど出来ないのだ。

子どもは育っていくものだが、大人がどのように関わっていくのか、このワークショップは沢山の示唆を与えてくれた。
(御前 明美)



古田直樹さんのお話を聞く参加者

注) ブザーワーク：言葉や身振りに頼らず、やってもらふ課題が近づいた時のみ、「ブザーを鳴らして伝える」行動療法の手法。

区切りを迎えた「バザー」を通して思うこと

長年続いた京都YWCAの年2回のバザーは、12月1日のクリスマスバザールで、一旦、区切りを迎えました。

京都YWCAのバザーの歴史

当日、バザー回顧展として年表や写真の展示を行いました。その活動史に触れると、関わった方々の思いが引き継がれ今ここにあるのだと再確認することができます。1923年に京都YWCAは正式に誕生。その5年前に二人の米国人女性宣教師がYWCA本部から派遣され、1921年、初のバザーが行われ、来場者554人という記述が残っています。

活動資金を生み出すためにバザーは始まりましたが、1970年代後半、リサイクルの品物が、大きな財源の柱としてバザーに取り入れられました。また次第に、バザー自体から出るごみの減量についても考慮されるようになり、現在のバザーに至っています。

今、思うこと

私は、1970年代から会員であることで、時代とともに変遷してきたバザーの印象的な場面が断片的によみがえってきます。関わる人々の“熱量”と集中する“瞬発力”というべきエネルギーを感じています。

年2回の全館あげてのバザーは、活動のための資金を得ることを目的にしていたと同時に、人々の出会いの場でもありました。毎回、準備から後片付けまで多くの時間と手

間をかけ、共に働くことを学ぶ機会でもありました。

また京都YWCAがめざすものとしている①女性や子どもの人権が守られる社会、②あらゆる暴力を否定する社会、③多様性を尊重し異なる文化や背景を持つ人々とともに生きる社会、④「核」のない持続可能な地球環境を体現する場でもあったと思います。

先見性を持ち、自分たちの大切にしたい場を持続するために、自分たちの力で立ち続けてきた先人たちの精神＝その背骨といえるものを未来へつないでいきたいと思っています。

これまで、多くのご協力・ご支援をいただきました。出店の皆さま・来場いただいた方々にも言い尽くせない力をいただきました。

感謝の意をお伝えするとともに、今後も京都YWCAへのご支援を心よりお願いいたします。
(弘中奈都子)



中庭のスリフトコーナー



バザーを終えて、充実の笑顔

今後のプログラム

◎京都YWCA2.11集会
過去を未来につなぐ～2.11集会の取り組み
と日韓ユース交流から～

■日 時：2019年2月11日(月)
13:00～16:00(12:00開場)
■場 所：京都YWCA
■内 容：映画鑑賞・2018年度日韓プログラム報告ほか、韓
国のおやつ販売等を予定
■参加費：500円(学生300円)
■申 込：要

◎ピーター・バラカンDJライブ in Kyoto

■日 時：2019年2月23日(土)
14:00～16:00(13:30開場)
■場 所：京都YWCAホール
■テーマ：ザ・ビートルズ
■チケット：2500円(クッキー・紅茶付き)
■予 約：要、料金は事前にお支払いください
■定 員：80名

◎定期会員集会＆「ありがとうホール」大交流会

日 時：2019年3月2日(土)
場 所：京都YWCAホール

第Ⅰ部：第97回定期会員集会【報告＆協議の部】
■時 間：10:00～13:00
■主 題：「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」
(ローマの使徒への手紙12章15節)

第Ⅱ部：【「ありがとうホール」大交流会】
～京都YWCAのこれまで、いま、これからを語ろう～
■時 間：14:00～17:00
■内 容：思い出が詰まったホールで、多くの皆様(現在・
過去の会員・会友・ボランティア・関係者)と語
り合い楽しい交流の時間をもちましょう。



●●「京都YWCA未来応援募金」へのご協力をお願い

本募金を通じて、京都YWCAが進める「多世代・多文化および女性・
子どものエンパワメント」事業へのみなさまのご支援を心よりお待ちし
ております。

郵便振替：01080-9-1566
加入者名：公益財団法人京都YWCA
*通信欄に「未来応援募金」とご記入ください。詳細は事務所まで。
京都YWCAへのご寄付の詳細はホームページをご覧ください。
<http://kyoto.ywca.or.jp/support>



ご寄付ありがとうございました。

2018年10月1日から11月30日 寄付者一覧(敬称略、順不同)

- 一般寄付
大島溥子、筒井奈都子、日月公子、
井上依子
- *ファンドレイジング委員会
チャリティーイベント企画チーム
横川宏美
- *クリスマスバザール
鍛冶富美子、池上信子、日月公子、
清水義、北村保子、横川宏美、
㈱マイチケット、
西京都共同購入会、
田中工務店(株)、ユニティ(株)
- *自立援助ホーム「カルーナ」
後援会費・寄付
筒井奈都子、樋口久美子、
平野富希、竹内二三、黒木雅子、
上田理恵子、吉村功子、
神門佐千子、手島千景、
日本聖公会京都教区婦人会、
匿名1名
カルーナ委員会有志
- *多文化共生委員会
APTへ
土井アルリーン、張善花、
神門佐千子
日韓ユース交流プログラムへ
実生律子、張善花
- *平和・環境委員会
平和・環境委員会有志
福島プロジェクトへ
木戸さやか、田中愛子、
横川宏美
- *活動グループ連絡会
手話かふえ有志
- 教育奨励基金
平野富希、小宮一子、
上田理恵子
- *賛助費
高野朗、大島溥子、大岸素子、
田中愛子

ALL THE TIME a.i.t.a

有田税理士事務所



京都市上京区武者小路通烏丸西入梅屋町468

電話 075-451-5178 FAX075-431-7215

ホームページ http://www.aritax.jp

11・12月/理事会報告

- 京都市男女共同参画センター・ウィングス京都の「パープルリボン月間」に「カルーナ」の紹介展示物を出展(11月)。
- ふれあいの居場所食堂「うららかふえ」での若者就労支援事業を受け皿に、自立援助ホーム「カルーナ」の利用者・退所者の就労体験プログラムを推進。
- 小学生対象冬休みキッズデアアウト・プログラム「ガジュマルの樹」を実施(12月25日～27日)。
- 2018年度末見込み、2019年度予算について検討。
- 本館の外壁補修等の工事の内容および日程の大枠を決めた(工事は2月開始予定)。
- 会費制度の見直し、および年少会員制度について協議。
- 日本YWCA主催の「日韓シニア・カンファレンス」(2019年1月11日～14日 京都で開催)の受入、およびその一環としての京都フィールドワーク(1月12日)について検討。

KYOTO YWCA No.548

2019年1月号(1月1日発行)

発行人：上村愈巳子

発行所：公益財団法人京都YWCA

〒602-8019 京都市上京区室町通水上ル近衛町44

電話：(075)431-0351

FAX：(075)431-0352

e-mail：office@kyoto.ywca.or.jp

H P：http://kyoto.ywca.or.jp

郵便振替：01080-9-1566

口座名義：(公財)京都YWCA

定 価：奇数月1日発行(1部50円)